

まちづくり戦略ビジョン

について

伴 孝昭

札幌市視察報告

◎札幌市まちづくり戦略ビジョンについて

～札幌の未来をつなぐ子どもたちのために～

～新たな創成期を切り開いていくために～

○札幌市の概要

- ・石狩川の支流である豊平川の扇状地に開かれたまちである。
面積 1,121.12km²
- ・1869年の開拓使設置以降、周辺市町村との合併やオリンピックなどを経て人口が急速に増え続けた
人口 1,941,127人（国内で5番目）
北海道人口543万人の35.7%
65歳以上 445,282人（全人口の23.1%）
- ・市職員総数 14,063人
- ・財政 26年度予算（単位：千円）
一般会計 884,750,000
特別会計 360,723,000
企業会計 290,829,000
合計 1,536,302,000
- ・公立学校 幼稚園 10園・小学校 204校・中学校 99校
- ・就業者数 861,037人
第1次産業 3,534人（0.4%）
第2次産業 118,904人（13.8%）
第3次産業 658,853人（76.5%）
- ・議員定数 68人

・平成26年度主要事業

- ①子供の笑顔があふれる街
 - ・5歳児健康相談事業
 - ・私立保育所整備費等補助

- ・札幌市立中高一貫教育校の設置関連
- ②安心して暮らせるぬくもりの街
 - ・空き家対策事業
 - ・広域型特別養護老人ホーム新築費補助
 - ・元気ショップ移転関連
- ③活力みなぎる元気な街
 - ・中小企業金融対策資金貸付
 - ・札幌国際芸術祭開催関連
 - ・(仮称) 市民交流複合施設整備事業関連
- ④みんなで行動する環境の街
 - ・省エネ型冷蔵庫買換キャンペーン事業
 - ・丸山動物園施設整備関連
- ⑤市民が創る自治と文化の街
 - ・白石地区複合庁舎整備関連
 - ・冬季オリンピック、パラリンピック開催調査
 - ・冬季競技国際大会開催関連
- ・観光、イベント
 - ・毎年、国内での魅力的なまちベスト3に選ばれている。
 - ・年間1300万人もの観光客が来る観光都市。
 - ・雪まつりやYOSAKOIソーラン祭りなどの多くのイベントの開催。
- ・目指すべき都市像
 - *北海道の発展なくして、札幌の発展なし。
 - >北海道の未来を創造し、世界が憧れるまち<
 - >互いに手を携え、心豊かにつながる共生のまち<

1) まちづくり戦略ビジョンの構成について

◎札幌は今、大きな転換期を迎えています。

札幌市を取り巻く社会経済情勢は、人口減少や高齢化が急速な進行など、今後10年間で大きく変化することが見込まれており、市民の暮らしや地域経済などに様々な影響を与えることが予測されています。

戦略ビジョン…まちづくりの幅広い分野にわたる、もっとも基本的な計画

・ビジョン編 私たちが目指す将来の札幌の姿を描いたもの

・目指すべき都市像

「北海道の未来を創造し、世界が憧れるまち」

* 札幌・北海道の魅力資源をみんなで磨き上げて、それを発信することで、世界が憧れる、心ときめくまちを目指す。

「互いに手を携え、心豊かにつながる共生のまち」

* 誰もが生きがいと誇りを持ちながら、お互いにつながり、支え合うことで、心豊かで笑顔になれるまちを目指す。

・まちづくりの基本目標

市民・企業・行政がその目標に向かって連携しながら課題に取り組むために、まちづくりの分野や重要な視点を7つに分け、24の基本目標を設定し、具体的にイメージできるように明記した。

・基本理念

「札幌の未来をつなぐ子どもたちのために」

・基本姿勢

- ①市民が主役のまちづくり
- ②北海道と共に発展する札幌
- ③まちの活力を高める人づくり
- ④限りある資源の有効活用と共創

・ **戦略編** 主に行政が優先的・集中的に取り組むことを示したもの

- ・ 集中して取り組む3つのテーマ
- ・ これから目指していく札幌のまちの造り
- ・ まちづくりを進める上での視点

◎都市経営戦略（札幌の強みや時代の潮流を生かしながら、様々な課題への対応と、まちの魅力を高めていくためのまちづくりの指針）

第1章・・・創造戦略（選択と集中の考えを取り入れた）

第2章・・・戦略を支える都市空間（戦略を促進する都市整備の基本方針）

第3章・・・戦略の展開に当たって踏まえるべき行財政運営の視点

「札幌市まちづくり戦略ビジョン」は、市民と共有し、共に進めていく「市民計画」で、このビジョンに基づき、市民とともに「札幌らしい将来のまちの姿」を思い描き、共に築き上げていくことによって、世界に誇る魅力的な札幌のまちを将来に引き継いでいくものである。

・ **計画期間**

10年間「平成25年～34年度」

2) まちづくり戦略ビジョン 戦略編の策定趣旨について

札幌の現状と課題

- ① **人口減少**・・・人口が減ることも考えながらまちづくりを進める必要がある。
 - ・ 今まで増え続けてきた人口が、平成27年頃から減り始める。
- ② **超高齢化**・・・誰もが安心して暮らせるまちづくりを考えることが大事である。
 - ・ お年寄りが増え、支えや見守りの必要な人が増える。
 - ・ 一人暮らしのお年寄りが増え、平成37年には、8つの家庭のうち1つはひとり暮らしのお年寄りの家庭である。
- ③ **生産年齢人口の減少**・・・みんなが働きやすくすることや、経済（お金・モノ・サービスの流れ）を元気にすることが重要である。
 - ・ 札幌の経済を支える働き盛り（15～64歳）は、平成17年から減少している。
- ④ **環境・エネルギー問題**・・・環境にやさしいまちづくりと暮らし方の見直しが必要である。
 - ・ 福島第一原子力発電所の事故をきっかけとして、原子力発電に頼ら

- ず、太陽光などの再生可能エネルギーを増やすことが望まれる。
- ・家庭で使うエネルギーは、冬の暖房によってほかの都市よりも多くなっている。

このように札幌市において、様々な社会課題や地域課題が想定されており、今後、かつて経験したことのない時代へと突入していく。

こうした状況において、将来の札幌を担う子どもたちの明るい未来を願い、先人たちがこれまで培った都市の魅力をさらに高める努力をした上で、このまちの輝きを次世代に引き継いでいかなければならない。

この札幌市まちづくり戦略ビジョン「戦略編」は、こうした課題に果敢に挑戦していくための羅針盤とも言うべき、札幌市の新たな都市経営戦略を定めるものである。

3) 戦略編の概要について

第1章 創造戦略・・・札幌は今、大きな転換期を迎えようとしている。

- ・創造性に富む市民と、外部との交流によって生み出された知恵が産業や文化を育み、新しいコト、モノ、情報を絶えず発信していくまち、「創造都市さっぽろ」を目指して、全力で取り組んでいく必要がある。

- ・この章では、3つのテーマごとに、社会経済情勢の変化や札幌ならではの強みと弱みを踏まえた戦略設定の分析を行った上で、時代の変化に的確に対応しながら目指すべき都市像を実現するための8つの創造戦略を設定する。

テーマ①暮らし・コミュニティ

つながりや支え合いによる安心して暮らせる地域を目指します。

創造戦略1 地域福祉力創造戦略～市民が孤立することのない地域づくり～

パラダイムシフト：支援を必要とする市民へのアプローチ強化

- 1-① 市民の孤立を防ぐ支え合いの環境づくり
- 1-② 地域に密着した保健福祉サービスを提供する環境づくり
- 1-③ 災害に備えた地域防災体制づくり

創造戦略2 共生社会創造戦略～全ての市民が社会に参加できる地域づくり

パラダイムシフト：誰もが生涯現役で活躍できる環境整備

- 2-① 地域で共生する環境づくり

- 2-② 子ども・若者を社会全体で育成・支援する環境づくり
- 2-③ 歩いて暮らせるまちづくり

創造戦略3 地域マネジメント創造戦略～地域資源の活用の推進～

パラダイムシフト：地域の特性や課題に即した組織体制の構築

- 3-① 地域活動を活発化する環境づくり
- 3-② 地域マネジメントの推進
- 3-③ 雪と共存した暮らしの推進

テーマ②産業・活力

北海道経済全体の活性化を見据えた強い経済基盤の確立を目指します。

創造戦略4 札幌型産業創造戦略～新たな価値の創造による産業の高度化～

パラダイムシフト：北海道の魅力資源を生かした産業力強化

- 4-① 食の魅力を生かした産業の高度化
- 4-② 魅力あるまちづくりと観光振興の一体的推進
- 4-③ エネルギー転換に対応した環境産業の創造
- 4-④ 超高齢化社会に対応した健康・福祉産業の創造

創造戦略5 都市ブランド創造戦略～道内循環を高め、道内需要を取り込む手法と基盤づくり～

パラダイムシフト：国内外の活力を取り込む環境整備

- 5-① 世界の活力を取り込む国際戦略の積極展開
- 5-② 創造性を生かしたイノベーションの誘発
- 5-③ 地域連携ネットワークの強化と投資循環の充実
- 5-④ シティプロモート戦略の積極展開

*札幌未来創造プロジェクト

- 1 「新幹線の札幌延伸の早期実現」
- 2 「冬季スポーツ国際大会の誘致」
- 3 「バックアップ拠点としての全国への貢献」

官民一体となった活動によって、夢を実現していく取り組みを未来創造プロジェクトと名付け、シビックプライドの醸成を図りつつ新たな札幌のブランド価値を創造する取り組みである。

創造戦略6 産業人材創造戦略～将来の札幌・北海道経済を支える人材の育成・活用～

パラダイムシフト：女性が活躍できる環境整備

- 6-① 将来を担う創造性豊かな人材の育成・活用
- 6-② 誰もが活躍できる社会の実現

テーマ③低酸素社会・エネルギー転換

低酸素社会と脱原発依存社会の実現を目指します。

創造戦略7 低酸素都市創造戦略～環境負荷の少ない都市の形成～

パラダイムシフト：環境に優しいコンパクトな都市の構築

- 7-① 持続可能な集約型の都市への再構築
- 7-② 多様な活動を支える環境に優しい交通体系の確立
- 7-③ 自然との共生とみどり豊かな都市づくりの推進

創造戦略8 次世代エネルギー創造戦略～エネルギー効率と安定性の向上～

パラダイムシフト：効率的で安定したエネルギーネットワークの構築

- 8-① 次世代エネルギーシステムの普及促進
- 8-② 自律分散型エネルギーネットワークの展開
- 8-③ 市民・企業による環境負荷低減の取り組みの推進
- 8-④ 循環型社会の構築

第2章 都市整備の基本方針「戦略を支える都市空間」

都市空間を創造するための基本的な考え方と、今後10年間で集中的に取り組む都市整備に関する施策を「都市空間創造戦略」として示した。

：都市空間創造の基本目標

持続可能な札幌型の集約連携都市への再構築を進めます。

- 1 魅力ある市街地
 - ・質の高い複合型の市街地形成を促進する。
 - ・安心して暮らせる郊外住宅地を目指す。
 - ・一般市街地の生活の維持、保全を図る。
- 2 活力があふれ世界を引きつける都心
 - ・札幌にふさわしい重点的なまちづくりを推進する。
 - ・都心の回遊性の向上や交通環境の改善を図る。
 - ・先進的、積極的なエネルギー施策の展開を図る。
- 3 多様な交流を支える交流拠点
 - ・地下鉄駅周辺などの機能向上を促進する。
 - ・都市機能を高める取り組みを推進する。
- 4 持続可能な都市を支えるネットワーク
 - ・公共交通の利用促進を図る。
 - ・骨格道路網などを強化する。
 - ・骨格的なみどりのネットワーク化を推進する。

- ・市街地のみどりの充実、ネットワーク化を推進する。
 - ・都市開発等に合わせたエネルギーネットワークの構築などを促進する。
 - ・創エネルギーを推進する。
- 5 都市基盤の維持・保全と防災力の強化
- ・都市基盤の効率的かつ計画的な維持、保全などを推進する。
 - ・災害に強い都市を構築する。

第3章 創造戦略と都市空間整備の展開を支える

「行財政運営の視点」

新たな視点と価値観を踏まえた行財政運営により、限りある経営資源を有効に活用する。

- 1 市民自治の更なる深化 ～市民が主役のまちづくり～
 - ・より詳細でわかりやすい情報提供
 - ・徹底した市民議論
 - ・新しい公共の成長
- 2 変化に対応できる組織
 - ・柔軟な組織運営体制の構築
 - ・職員の能力向上
- 3 持続可能な財政運営
 - ・計画的な財政運営
 - ・機動的な予算の編成と執行
 - ・財源の確保を意識した事業展開と不断の見直し
- 4 サービス水準や受益と負担の在り方
- 5 市有財産の保全と活用
 - ・市有建築物の更新
 - ・市有財産や施設の潜在力の発揮
- 6 市民、企業などとの連携の強化
- 7 北海道と道内市町村との連携の強化

4) 成果指標の設定について

「創造戦略」の取り組みごとに市民へのわかりやすさや、戦略の進捗管理をおこなう上で代表的な項目を設定。

「市民意識」と「社会指標」の2種類で構成

5) 戦略ビジョンの進行管理について

：中期計画との連動

まちづくり戦略ビジョン<戦略編>に掲げる成果指標は、来年策定予定の中期計画に連動させる。

：部門別計画との連動

各局の策定する部門別計画においても、まちづくり戦略ビジョン<戦略編>が掲げる成果指標を連動させる。

6) 今後の課題等について

札幌を取り巻く社会経済情勢の変化

- 1 **人口の将来見通し**・・・平成27年前後を境に札幌の人口は減少に転じることが予測される。
　　>人口減少を見据えたまちづくりが必要<
- 2 **超高齢化の到来**・・・高齢化が進む中、高齢単身所帯がさらに増加していくことが予測される。
　　>誰もが安心して住み続けられる地域の支え合いが重要<
- 3 **地域ごとの人口推移**・・・人口の増減や年齢構成は地域ごとに大きく異なる。
　　>地域の現状や特性に合わせたまちづくりを進めることが重要<
- 4 **経済規模の縮小**・・・生産年齢人口の減少とともに、実質市内総生産も減少する。
　　>働く場の確保、産業の高付加価値化による市民所得の向上が重要<
- 5 **グローバル化の進展**・・・経済成長、人口増加が著しいアジア諸国との関係が強くなる。
　　>成長著しいアジアの活力を最大限に取り込むことが必要<
- 6 **環境・エネルギー問題**・・・原子力発電に依存しない社会への移行が望まれる。
　　>低酸素社会と脱原発依存社会の実現に向け、資源の有効活用や市民一人一人の取り組みが重要<

○ 市民参加事業

「市民計画」としての「戦略ビジョン」

策定に当たって、市民アンケートなどで札幌の魅力と課題についての調査を実施したほか、様々な手法を用いた各種ワークショップの開催、将来の札幌の目指すべき姿やまちづくりの目標などについて検討を行う市民会議の実施など市民参加の取り組みを積極的に進め、「市民とともに作る」という策定プロセスを重視した。

：戦略ビジョン策定に係る主な市民参加事業：

- 1 1万人市民アンケート
- 2 道外アンケート
- 3 将来の札幌を考える市民会議
- 4 さっぽろ1000人ワールドカフェ
- 5 みんなでつくる「さっぽろ未来カフェ」プロジェクト
- 6 テーマ別ワークショップ
- 7 まち「つながる」ワークショップ
- 8 さっぽろ未来カフェ in 東京
- 9 国際都市さっぽろワールドカフェ
- 10 子供のまち「ミニさっぽろ2011」
- 11 キッズコメント
- 12 子ども議会
- 13 「児童会館・ミニ児童会館」における子どもの意見聴取

・所 感

札幌市では、平成32年を目標年次とする札幌市基本構想と第4次札幌市長期総合計画に基づき、計画的にまちづくりを進めてきた。

いままで、市制施行以来、一貫して人口が増加し、周辺市町村との合併やオリンピックなどを経て、人口が急激に増え、国内でも5番目の都市として北海道経済の中心地としての役割を果たしてきた。

しかし、少子高齢化や人口減少、北海道経済の長期にわたる低迷、福島第一原子力発電所の事故をきっかけとしたエネルギー政策の見直しなど、札幌を取り巻く社会経済情勢が、計画策定時の想定を超えて大きく変化してきた。

その中で、先人たちが築き上げてきたこの魅力的なまちを受け継ぎ、そして札幌の未来をつなぐ子どもたちに良好な形で引き継いでいくために、市民・企業など活動主体がこのビジョンを共通の指針として広く認識し、それぞれが自分の役割をはたしていくことで、札幌・北海道の新しい未来を切り拓くことができるものである。

こうした状況の中、市民が、目指すべきまちの姿とまちづくりの方向性を共有し、共に取り組んでいくために、札幌市まちづくり戦略ビジョンを策定したものである。

この戦略ビジョンは、新たなまちづくりの基本的な指針となるものであり、札幌市のまちづくりの計画体系では、幅広い分野にわたる総合計画として最上位に位置付けられるものである。

この策定過程において、有識者や専門家等で構成された審議会での議論やパブリックコメントに加え、市民会議をはじめとする重層的な市民参加のステージを設け、幅広い世代や属性の市民参加を目指すなど、「市民とともに作る」という策定プロセスを重視した。

また策定に当たっては、市民アンケートなどで札幌市の魅力と課題についての調査を実施したほか、様々な手法を用いた各種ワークショップの開催、将来の札幌市の目指すべき姿やまちづくりの目標などについて検討を行う市民会議

また子どもたちからのキッズコメント・子ども議会・中学3年生の社会科副読本として札幌市のまちづくりを勉強する取り組みなどを積極的に進めてきたことは、大きく評価できる。

本市においても、平成19年～28年までの10年間 大津市総合計画として、まちづくりを進めているところである。

大津市総合計画は、「基本構想」と「実行計画」から構成され、「基本構想」は、まちづくりの基本理念、将来都市像、基本方針、基本政策を

定めた長期的な構想で、計画期間は、10年である。

「実行計画」は、必要な目標や支点を「施策」、「重点化の視点」として体系づけた「基本計画」と、それを具体的な事業内容として、重点事業を示した

「実施計画」で構成され、3・3・4年に分割され、現在25～28年度の第3期実行計画の期間中にある。

今後の課題においても、札幌市と同じく、人口減少・少子高齢化・地域ごとの人口推移・経済規模の縮小、エネルギー問題など、社会経済情勢の変化は、今後のまちづくりにおいて、十分に考慮する必要がある。

この視察を通じて、まちづくりは「市民とともに作る」ということを改めて認識した。